



Consumption tax



Image Illustration

消費税

消費税増税により圧迫していく「支出増」、カギは物価上昇と所得アップのバランス

消費税増税が4月から始まりました。はじまったばかりでまだ実感はありませんがこの増税に伴い、私たちの生活で増えていく増税負担分の支出に、所得アップが追いついてくるのでしょうか？

昨年の暮れに公開された統計局の「消費者物価指数」によると、2013年11月の総合物価指数は生鮮食品を除いた総合指数が1.2%。日銀がデフレ脱却のために設定した2014年の目標物価指数は2%です。

この物価指数を押し上げるには、私たちが日々の暮らしで支出を増やしていくことが必要不可欠になるため、ボーナス等の一時的な所得ではなく、賃金の基本給アップ（ベースアップ・ベアとも呼ばれる）が必要とされています。この賃金の基本給アップは、消費税による家計負担がどの位なのかを知る上でも重要です。

物価が上昇したとしても、それについていける体力が私たちになれば、自然と物価は下がっていき、景気が悪くなります。

業績がアップしている企業では賃金引上げに積極的な動きもあるようですが、アベノミクスの余波が未だ届かないところでは、恐らく現状維持がぎりぎり、もしくはもっと低くなるだろうと考えるところも多いはず。つまり、今年の私たちの生活は物価上昇に、所得アップが追いついてくれるかどうか、そのバランスの見極めがより重要になってくると言えます。



今のところ4月以降、一般家庭を中心に「節約志向」が強まるのではないかと見方が多く、この流れを受けて、食料品や生活用品を中心に扱う企業では、増税後も価格を据え置くことを決定しているところが多くなっています。

ただし日常生活では現在の暮らしが維持できても、電気・ガス・水道や通信等のライフラインは増税分がそのまま反映されるが多く、また消費税増税に便乗して値上げる商品等もでてきています。

そのため賃金アップが見込めないところでは、やはりじわじわと支出増の負担が押し寄せてくることは間違いないと言えます。

真綿で首を絞められるように、圧迫していく「支出増」に、どう対応していくのが今年の家計の喫緊の課題。所得アップが全国的に、平均的に行われるようになるか。そして物価上昇と所得とのバランスが果たしてうまく調整できるかどうか、今後の私たちの暮らしや生活のカギとなってくるでしょう。

あたたかい光が差し込む明るい店内「ぶぶれ BUPLE」ではフラワーアレンジメント教室を中心にかわいらしいガラス雑貨（花器等）と観葉植物・鉢花販売を行っており、お店に入るとオーナーのかとうりつこさんが選り抜いたグリーンが基調の花や花木達と一緒に看板犬BOOVEちゃんがお出迎えしてくれます。

もともとは、植物卸売市場で事務職をされていたかとうさんですが、ふとしたことから趣味で続けていたフラワーアレンジメントを教えることになり、その流れでいつか地元で教室を持ちたいとお店を探されていたところ、自宅近くの寺内町を散歩中に立ち寄った「陶工房飛鳥」で店主の阪本さんとの出会いがきっかけとなり、このお店をOPENしたそうです。

「人と人との関わりがあつてこそお店を開くことが出来たんです」「場所も人もお金も必要なきにやってくるものです」とのかとうさんのお言葉に、この場所でお店を開くことへの運命を感じてしまいますよね^(笑)

店名の由来である丸い葉と黄色い小さなお花がかわいらしい「プレリウム」のささやきが聴けるかもしれません。花器を選び、活け方を知ること、花一輪を飾るだけでも空間が変わります。

皆様もお花を活ける楽しみを知ってみませんか？



Vol.08 ぶぶれ BUPLE

住所：富田林市富田林町 10-12
電話：0721-21-3549
営業時間：11：00～19：00（日曜のみ 17：00 まで）
定休日：月・火曜日
<http://buple.jugem.jp/>

DATA

Vol.09 蔵ギャラリー くすのき

住所：富田林市富田林町 10-12 ガーデンコート内
電話：080-1486-8917
営業時間：12：00～17：00
定休日：月・火・水曜日
<http://www.comuso.com/kinoyubiwa/>

DATA

寺内町の中でも、ひととき大きな楠が存在感のある一角に、ひっそりと佇む「蔵ギャラリーくすのき」があります。

長い間手つかずにされていた古い納屋を、「出来る限り昔のままの姿を活かして、ここの良さを活かすために少しの補強をしただけです」とお話しいただいたのは、木工作家の萩下美千代さん。帽子作家の友人と二人で「くすのき」を守っておられます。

荒壁の残る小さな店内は、お洒落な小物達と軽快な音楽とコーヒーの香りが不思議な空間を作っています。木工作家の萩下さんは、自然の美しさの中でも特に小宇宙を感じる事ができる「木」を使ってオリジナルのアクセサリーを制作されているとのこと。

残念ながら、取材当日は作品は全て作品展に出品されており、手に取ることはできませんでしたが、次回の楽しみにとおっしゃいます。

今後、何か展開したいこと等ありますかと伺うと、ふつと首をかしげながら「今のままで・・・」と答えられた萩下さんの穏やかな笑顔に、ずっと、シンボルツリーの楠と共にここに存在してほしい・・・そんな空間でした。



次号は「月桃」と「しゅみのみせ 静」を紹介します。お楽しみに！